

氏名	岡村 幸宣	助成金額	70 万円
連絡先など	yo16marukimsn@aya.or.jp□		
助成のテーマ	米軍占領下の原爆の図全国巡回展 —被爆体験の国民的共有を旨とした最初の試みの実態調査研究—		

## 【研修の概要】

- ・画家の丸木位里・丸木俊夫妻は、広島・長崎の原爆被害の報道がプレスコードによって禁止されていた米軍占領下の 1950 年代はじめに、絵画連作《原爆の図》を描き、全国各地で巡回展を行って、いち早く核の脅威を人びとに知らせた。しかし、米軍の圧力を恐れた当時のメディアにはほとんど報じられず、展覧会の記録も残されないことが多かったため、その全体像はいまだに明らかになっていない。
- ・原爆投下から 70 年という節目の年は、丸木位里・丸木俊夫妻の《原爆の図》を再検証する一年になった。《原爆の図》が、米国ワシントン D.C.、ボストン、ニューヨークの 3 会場で巡回展を行ったことは、「原爆投下は正しかった」とする米国の歴史観に一石を投じた。会場で鑑賞者の反応を実際に見て、作品の解説を行う中で、絵画の想像力によって原爆に接近することが、非体験者にいかに重要な「体験」となるかを実感した。
- ・国内では、主に 1950 年代の映像や証言、資料を調査して、作品の誕生と全国巡回展の歴史的背景を考察し、書籍にまとめて新宿書房より刊行した。

## 【研修の経過】

- ・4月11日：広島にて四國五郎氏作品調査、長男四國光氏聞き取り
- ・4月17日：長崎にて被爆体験の継承を表現する現代美術作家・竹田信平氏聞き取り
- ・5月26～28日：長崎原爆資料館《原爆長崎之図》、高野山《火》《水》、大阪人権博物館《原爆の図 高張提灯》調査
- ・6月18日：ニューヨークにて1970年初の原爆の図米国展資料調査
- ・7月7日：広島市現代美術館にて再制作版《原爆の図》、公開修復予定の《原爆一ひろしまの図》調査
- ・7月：1950年ニュース映画『文化ニュース』のうち「芸術は愉し」（初めての《原爆の図》撮影映像）フィルムをデジタル化
- ・8月15日：アメリカン大学「原爆の図展」会場にて聞き取り
- ・10月7日：長崎にて原爆の図調査
- ・2016年2月6日：四國五郎氏調査、長男四國光氏聞き取り

## 【今後の展望など】

- ・《原爆の図》を取り巻く実証的研究を進めたことで、占領下の原爆報道への圧力に抵抗した人びとの動きが明確に浮かび上がる一方、米国側がどのようにその動きを捉えていたのか、日本の政治運動との関わりがどの程度あったのかという、さらなる調査課題も見えてきた。
- ・《原爆の図》の絵画的側面についても、15部連作だけでなく、模写として再制作された作品や、各地で依頼されて描いたその他の作品も視野に入れながら、原爆の惨禍をいかに絵画として表現したのか、多角的な検討が必要であると感じられた。・今研究の成果をもとに、継続して1950年代の研究を進めながら、70年代から80年代に再興する反核運動と《原爆の図》の関係も、今後新たに調べていきたい。

会計報告書の概要 (金額単位：千円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	国内移動宿泊費、米国内宿泊費	578	453		125
資料費	書籍代、図録代	54	50		4
印刷費	プリンタインク・紙代など	36			36
協力者謝礼など		47	47		
外部委託費	資料保存・記録映画 DVD 化・出版費用	150	150		
合 計		865	700	0	165

## 参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・岡村宣幸『《原爆の図》全国巡回 占領下、100万人が見た！』（2015年11月、新宿書房）

# 米軍占領下の原爆の図全国巡回展

—被爆体験の国民的共有を旨とした最初の試みの実態調査研究—



2016年5月28日 原爆の図丸木美術館学芸員 岡村幸宣



## 八月六日(原爆の図 第1部 幽霊)

1950年2月8日-18日 東京都美術館

180.0cm × 720.0cm 紙本墨画

丸木位里・赤松俊子(丸木俊) 原爆の図丸木美術館蔵

## 1. 《原爆の図》の誕生

### 〈社会的背景〉

- ・核開発をめぐる米ソ両国のせめぎ合い
- ・東アジア情勢の緊迫化  
(6月に朝鮮戦争勃発)
- ・占領政策の「逆コース」への反発
- ・プレスコード(原爆報道の検閲)

### 〈芸術的背景〉

- ・日本共産党主導の日本美術会の指針  
「植民地化反対、戦争・ファシズム反対」
- ・「芸術の大衆化」集団制作の実験

### 〈個人的動機〉

- ・明るい日本を描きたいなら、まず暗さを描かなければならない＝原爆の絵



### 原爆を描いたのは初めてではない

- ・人間の肉体を生々しく描いた絵画
- ・背景やシンボルは一切省略



古沢岩美《憑曲》1948年  
キノコ雲を描く



福井芳郎《ヒロシマ》1948年  
焼跡風景を描く



山本敬輔《ヒロシマ》1948年  
抽象的に被爆者を描く

最初の原爆の図報道(新聞) 1950年2月24日 婦人民主新聞



最初の原爆の図報道(映画) 1950年7月頃 文化ニュース

文化ニュース第177号  
理研映画製作、大映配給  
「芸術は愉し」

- ・「思い出の八月六日」
- ・「あの日の広島を描く大作・火」
- ・「親子三人水入らずの共同制作」

原爆という語が一度も使われていない



2. 占領下の全国巡回展



原爆の図 第2部 《火》



原爆の図 第3部 《水》



- 出発点は広島・五流荘
- ・1950年10月5-9日
  - ・平和運動の拠点だった謎の建物
  - ・「われらの詩の会」が尽力

- 「われらの詩の会」
- ・峠三吉、四國五郎ら詩人サークル
  - ・サークル誌『われらの詩』を刊行
  - ・被爆体験を聞き、続編制作へ生かす



**辻詩**

- ・朝鮮戦争下の反戦活動
- ・峠三吉らの詩と四國五郎の絵の共同制作
- ・「四國五郎展 シベリア抑留から『おこりじょう』まで 6月25日～9月24日



**I 主に丸木夫妻が帯同した最初期巡回展**

- 【1950年】
- ①東京都台東区・東京都美術館(日本アンパンダ展)
  - ②東京都中央区・日本橋丸善画廊
  - ③東京都渋谷区・東横デパート(水爆原爆展)
  - ④東京都中央区・日本橋丸善画廊(三部作完成記念展)
  - ⑤東京都中央区・銀座三越(三部作完成記念展)
  - ⑥広島県山鹿郡加計町・増神寺
  - ⑦広島県広島市・五流荘ホール
  - ⑧福岡県糟屋郡志免町・志免鉱業所
  - ⑨福岡県八幡市・大谷会館
  - ⑩福岡県福岡市・新天会館
  - ⑪福岡県久留米市・金文堂
  - ⑫島根県松江市・松江市民会堂
  - ⑬鳥取県米子市・明道小学校



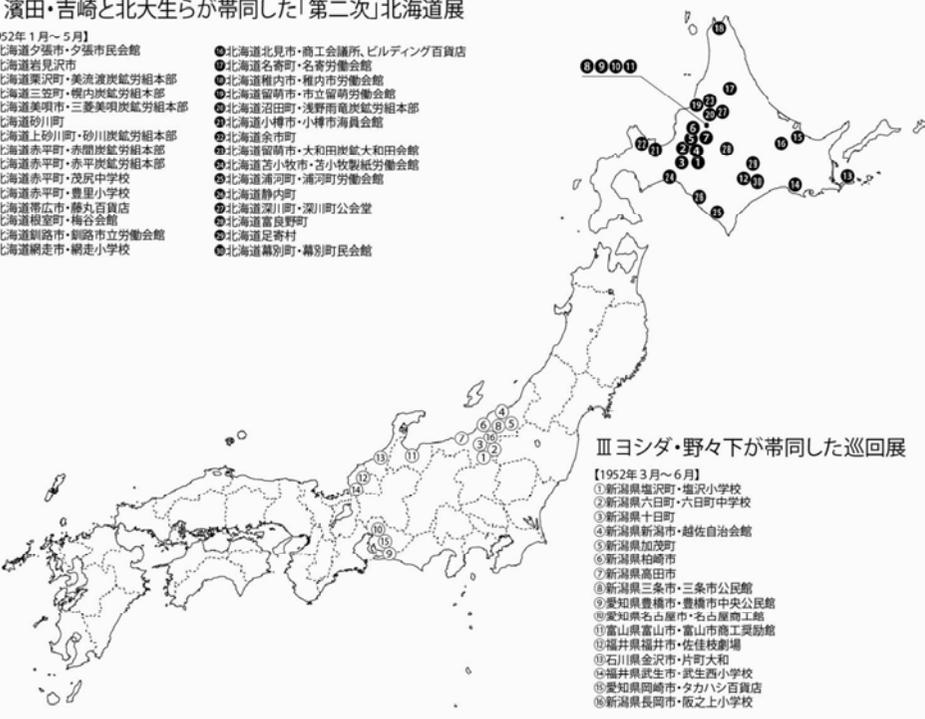
**IV 東京都平和会議の巡回展などが乱立した最盛期**

- 【1952年6月～11月】
- ①東京都文京区・東京教育大学(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ②千葉県鎌ケ谷市・鎌ケ谷市民会館
  - ③静岡県浜松市・静岡大学
  - ④愛知県碧南市
  - ⑤東京都北区・赤羽公民館(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑥東京都中野区江古田・東京療養所
  - ⑦東京都清瀬市・清瀬病院(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑧東京都渋谷区・渋谷区公会堂(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑨東京都武蔵野市・平山博物館(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑩群馬県高崎市・高崎貿易会館
  - ⑪東京都世田谷区(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑫東京都立川市・南口公会堂(東京都平和会議「原爆展」前期)
  - ⑬静岡県磐田市
  - ⑭東京都北区滝野川・区役所支所(東京都平和会議「原爆展」後期)
  - ⑮群馬県太田市・太田小学校
  - ⑯東京都板橋区・板橋講堂(東京都平和会議「原爆展」後期)
  - ⑰東京都港区・増上寺(東京都平和会議「原爆展」後期)
  - 埼玉県浦和市・小松原学園
  - 埼玉県浦和市・埼玉大学
  - 東京都渋谷区・青山学院大学
  - 東京都足立区・安養院(東京都平和会議「原爆展」後期)
  - 東京都台東区・東京芸術大学
  - 群馬県伊勢崎市



**II 濱田・吉崎と北大生らが帯同した「第二次」北海道展**

- 【1952年1月～5月】
- 北海道夕張市・夕張市民会館
  - 北海道若見沢市
  - 北海道栗沢町・美流炭鉱労組本部
  - 北海道三笠町・横内炭鉱労組本部
  - 北海道美瑛市・三菱美瑛炭鉱労組本部
  - 北海道砂川町
  - 北海道上砂川町・砂川炭鉱労組本部
  - 北海道赤平町・赤間炭鉱労組本部
  - 北海道赤平町・赤平炭鉱労組本部
  - 北海道赤平町・茂原中学校
  - 北海道赤平町・豊里小学校
  - 北海道帯広市・陸九百貨店
  - 北海道根室市・梅谷会館
  - 北海道釧路市・釧路市立労働会館
  - 北海道網走市・網走小学校
  - 北海道北見市・商工会議所、ビルディング百貨店
  - 北海道名寄町・名寄労働会館
  - 北海道稚内市・稚内市労働会館
  - 北海道留萌市・市立留萌労働会館
  - 北海道沼田町・浅野南炭鉱労組本部
  - 北海道小樽市・小樽市海員会館
  - 北海道余市町
  - 北海道留萌市・大和田炭鉱大和田会館
  - 北海道苫小牧市・苫小牧製紙労働会館
  - 北海道浦河町・浦河町労働会館
  - 北海道静内町
  - 北海道深川町・深川町公会堂
  - 北海道富良野町
  - 北海道足寄町
  - 北海道幕別町・幕別町民会館



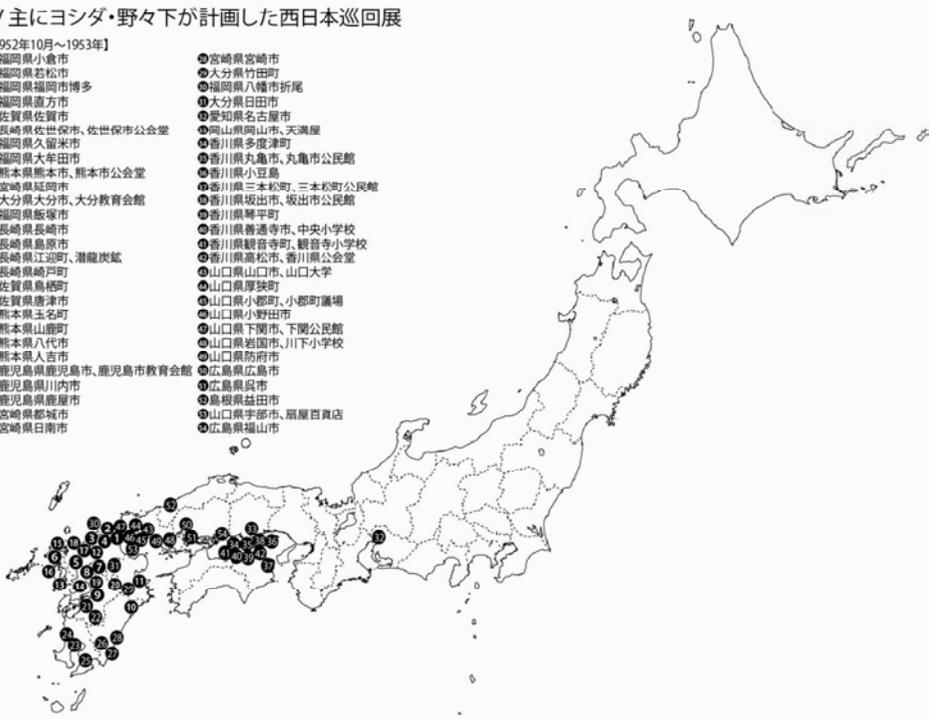
**III ヨシダ・野々下が帯同した巡回展**

- 【1952年3月～6月】
- ①新潟県津波町・津波小学校
  - ②新潟県六日町・六日町中学校
  - ③新潟県十日町
  - ④新潟県新潟市・越後自治会館
  - ⑤新潟県加茂町
  - ⑥新潟県柏崎市
  - ⑦新潟県高田市
  - ⑧新潟県三条市・三条市民会館
  - ⑨愛知県豊橋市・豊橋市中央公民館
  - ⑩愛知県名古屋市・名古屋労働会館
  - ⑪富山県富山市・富山市労働会館
  - ⑫福井県福井市・佐佐木劇場
  - ⑬石川県金沢市・片町大和
  - ⑭福井県武生市・武生西小学校
  - ⑮愛知県岡崎市・タカハシ百貨店
  - ⑯新潟県長岡市・阪之上小学校

V主にヨシダ・野々下が計画した西日本巡回展

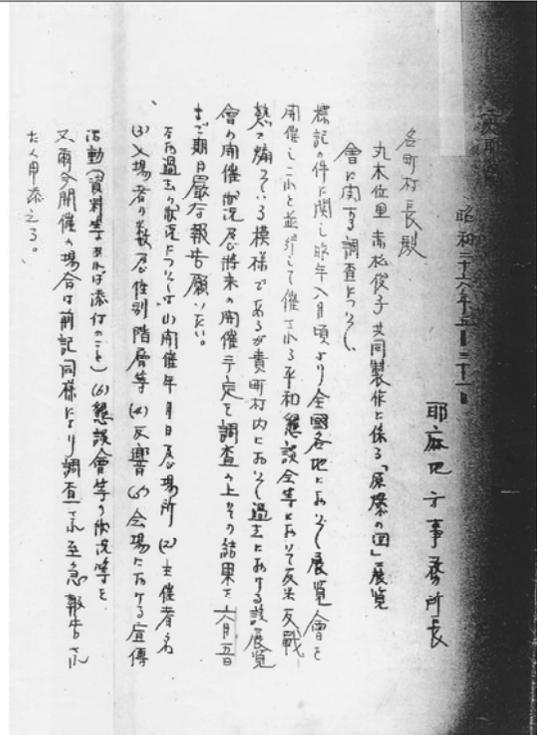
[1952年10月~1953年]

- 宮崎県宮崎市
- 福岡県小倉市
- 福岡県若松市
- 福岡県福岡市博多
- 福岡県直方市
- 佐賀県佐賀市
- 長崎県佐世保市、佐世保市公会堂
- 福岡県久留米市
- 福岡県大牟田市
- 熊本県熊本市、熊本市公会堂
- 宮崎県延岡市
- 大分県大分市、大分教育会館
- 福岡県飯塚市
- 長崎県長崎市
- 長崎県島原市
- 長崎県江津市、浦瀬炭鉱
- 長崎県崎戸町
- 佐賀県鳥栖町
- 熊本県唐津市
- 熊本県玉名町
- 熊本県山鹿町
- 熊本県八代市
- 熊本県人吉市
- 鹿児島県鹿児島市、鹿児島市教育会館
- 鹿児島県川内市
- 鹿児島県鹿屋市
- 宮崎県都城市
- 宮崎県日南市
- 宮崎県宮崎市
- 大分県竹田町
- 福岡県八幡市折尾
- 大分県日田市
- 愛知県名古屋市
- 岡山県岡山市、天満屋
- 香川県多度津町
- 香川県丸亀市、丸亀市民館
- 香川県小豆島
- 香川県三本松町、三本松町公民館
- 香川県坂出市、坂出市民館
- 香川県高松市
- 香川県三本松町、中央小学校
- 香川県観音寺町、観音寺小学校
- 香川県高松市、香川県公会堂
- 山口県山口市、山口大学
- 山口県厚狭町
- 山口県小野田市
- 山口県小野田市、小野田劇場
- 山口県下関市、下関公民館
- 山口県岩国市、川下小学校
- 山口県防府市
- 広島県広島市
- 広島県呉市
- 広島県福山市
- 山口県宇部市、福屋百貨店
- 広島県福山市



①巡回展への圧力の実例

- ・市町村への内偵調査  
(例: 慶徳村 1951年5月31日)
- ・札幌展会場責任者逮捕  
(1951年11月22日)



②「原子力の平和利用」の後押し

- ・北海道原爆展ニュース  
「原子力の平和的利用」  
1952年2月25日
- ・豊橋・愛知大学「原爆の図展」  
1952年4月26-29日  
教育映画『原子力』上映



③再制作版《原爆の図》の調査

- ・作品の実見調査・比較展示  
「原爆の図はふたつあるのか」  
3月19日-6月18日
- ・展示会場は主に北海道・西日本
- ・米国展示の誘いを契機に制作  
同時多発的な巡回展を支える
- ・15部連作以外の表現を視野に  
入れた《原爆の図》の再検証



1952年1月三菱美唄展会場 (再制作版展示)



